

文部科学省 科学技術学術審議会
人材委員会（第64回）
2013年11月29日

資料2
科学技術・学術審議会
人材委員会(第64回)
H25.11.29

女性研究者の活躍促進に向けて

名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻の取組について

大学院理学研究科 生命理学専攻
分子神経生物学グループ
森 郁恵



2006年

名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻には、たった2名の女性教員のみ



教授



助教

そして 現在 2013年

女性公募による採用

■ 文部科学省「女性研究者支援モデル育成」 2007～2009年度

■ 文部科学省「女性研究者養成システム改革加速」 2010年度～



なぜ、生命理学専攻で女性教員がふえるのか？

分野に縛られない人事

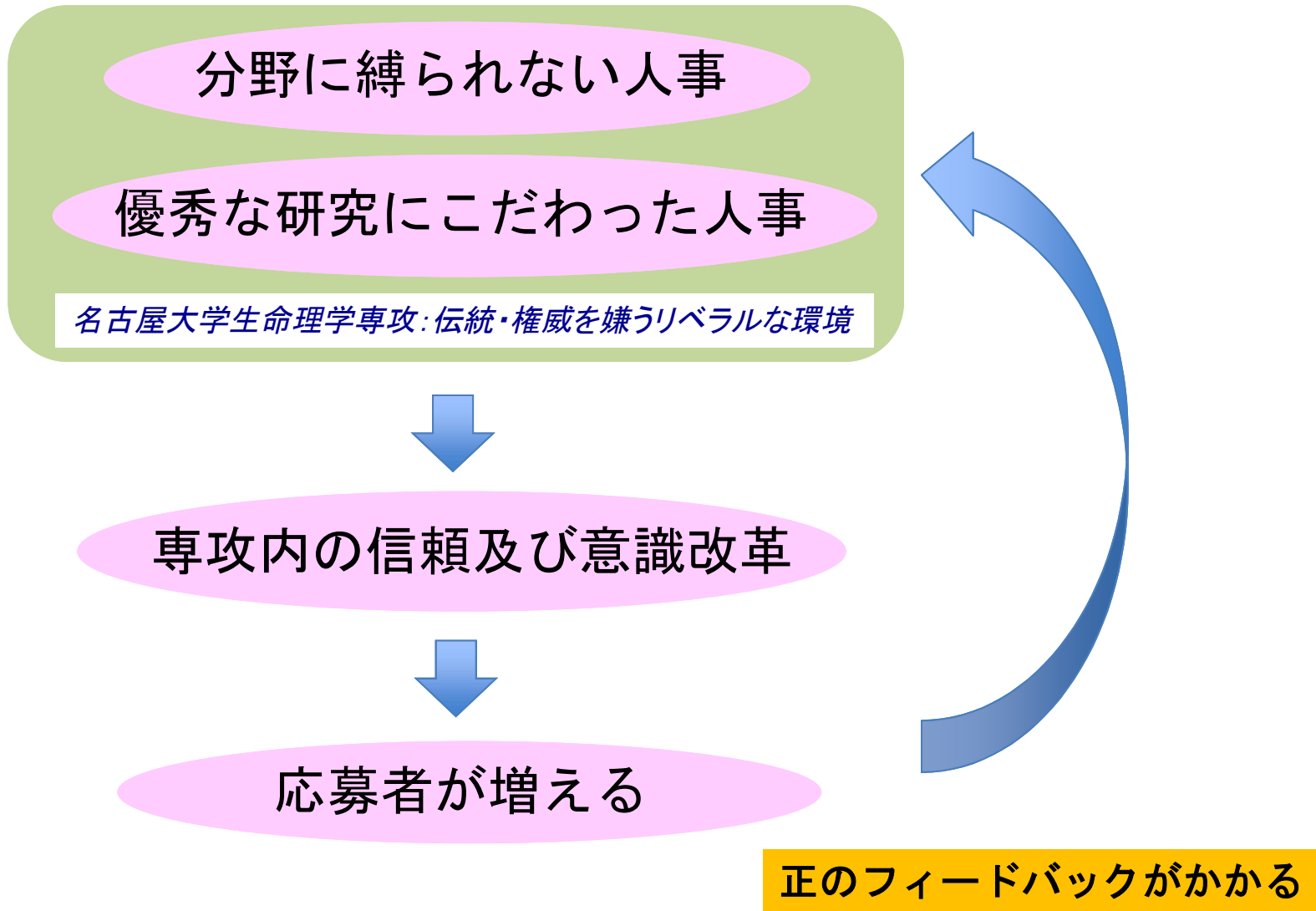
優秀な研究にこだわった人事

名古屋大学生命理学専攻：伝統・権威を嫌うリベラルな環境

専攻内の信頼及び意識改革

応募者が増える

正のフィードバックがかかる



生命理学専攻内における育児支援室の設置

育児と仕事の両立のために、育児支援室を独自に設置した。子供を連れてきたときの仕事場として利用できる。女性だけではなく、育児中の男性、学会の託児所としても利用できる。



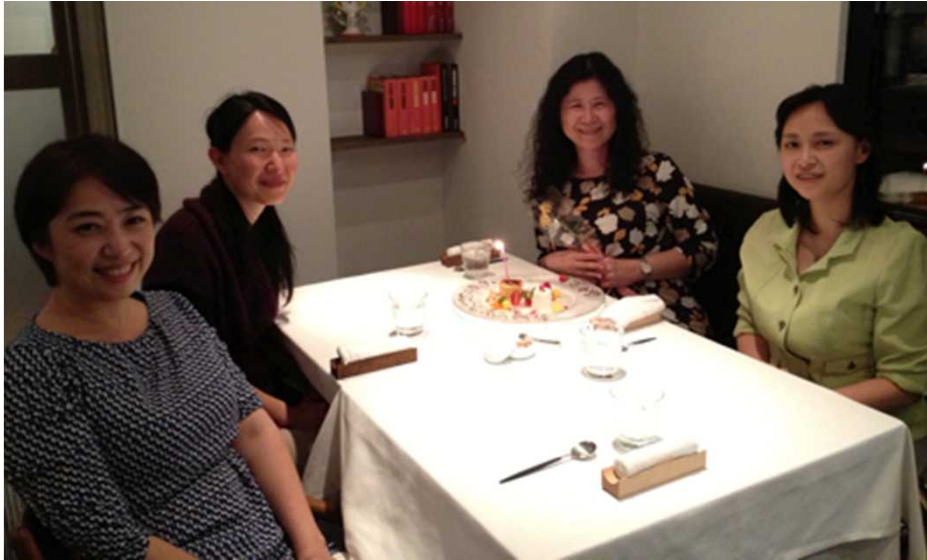
実際、学会で使用した経験から、「名大であれば子育て中も研究が続けられる」と思い立ち、公募人事に応募した結果、生命理学専攻の特任講師として採用された女性教員もいる

備品：ソファベット1台、毛布、クッション、折りたたみ机、TV（DVDプレイヤー付き）、冷蔵庫、電子レンジ、電気ケトル、鏡、防犯ベル、おもちゃ、ベビーサークル、流し台

女性教員の数が増えると何がおこるのか？

1. 女性トップリーダー育成
(名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム)
2. 名古屋大学子育て単身赴任教員ネットワーク
3. 名古屋大学女性神経科学者による脳神経回路世界拠点構想

生命理学専攻で女性研究者問題に取り組んでいる女性教員4人は お茶の水女子大学に関係が深い



森 郁恵 (教授)
お茶の水女子大学生物学科
Washington University (PhD)

上川内あづさ (教授)
桜蔭中学校・高等学校
東京大学 (博士)

佐々木成江 (准教授)
お茶の水女子大学生物学科
東京大学 (博士)

西山朋子 (特任講師)
お茶の水女子大学附属高等学校
東京工業大学 (博士)

世代 (30代~50代) を超えた共通点

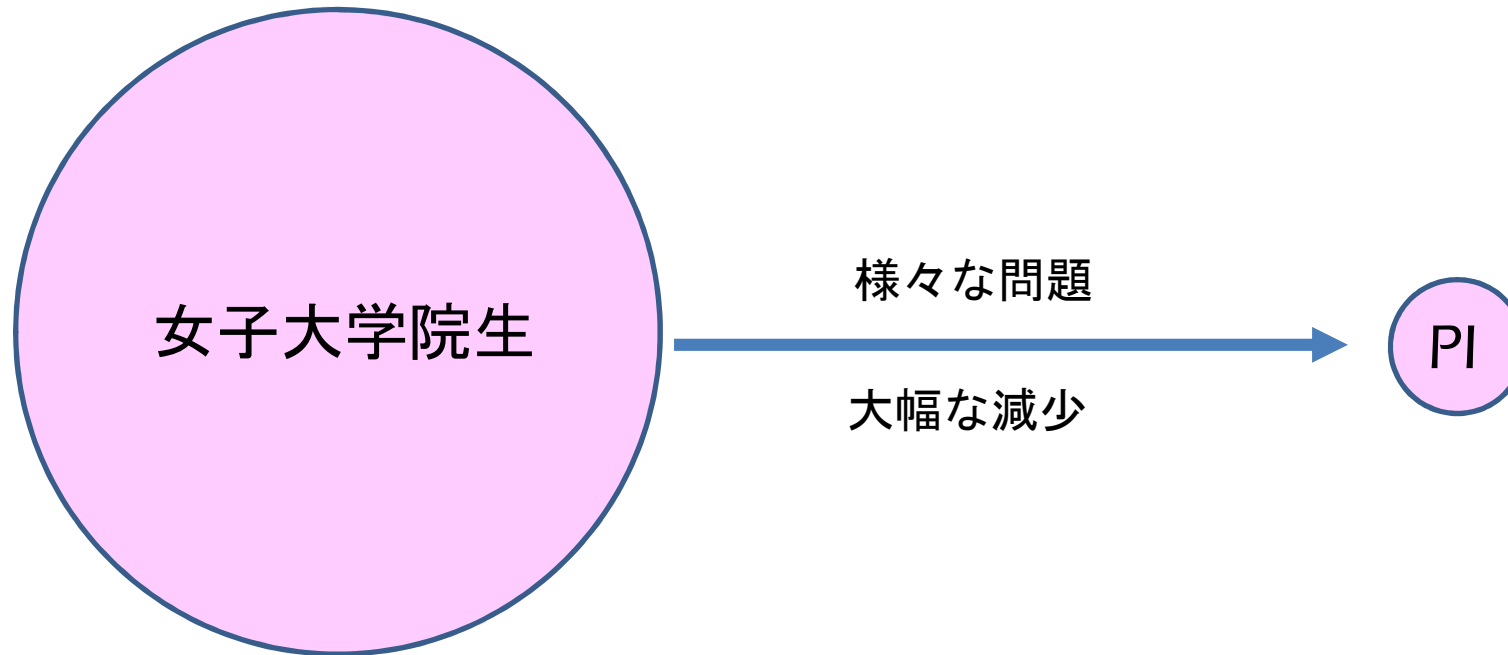
- * 女性だけで組織を作った経験がある
- * お茶の水女子大学の女性教育の影響を無意識に受けている
- * 力仕事や機械工作も、男性に頼れず、自ら解決してきた
- * 男女共学も経験している (ジェンダーバイアスの弊害を知っている)
- * 足の引っ張り合いがなく、仲間を讃える傾向がある (世代を超えたネットワーキング)

自分の悩みを、マイノリティの問題や女性のキャリアパス問題として客観視することができ、その解決に向けて相談し合うことに慣れている

女性トップリーダー育成

リーディング大学院グリーン自然科学国際教育プログラム

優秀な女性科学者を増やすために



特別な早期トップリーダー育成が必要

生命理学の女性教員が発案し、リーディング大学院プログラムの柱となった

女性科学者育成チームを結成し、将来PIを目指す女子大学院生に対してトップリーダー育成を行う

名古屋大学 博士課程教育リーディングプログラム
グリーン自然科学国際教育研究プログラム
 Integrative Graduate Education and Research Program in Green Natural Sciences

ENGLISH
 お問い合わせ サイトマップ リンク

HOME
 プログラム
 学生支援
 経済支援
 留学支援
 インターナシップ
 キャリアパス
女性科学者育成
 コースワーク/スキルセミナー/英語授業
 レクチャー/シンポジウム/セミナー
 活動業績
 学内専用

学生支援

女性科学者育成

女性科学者育成チーム: 本学および海外連携大学のトップ女性科学者を中心に、特別チームを結成し、選ばれた女子大学院生のための女性科学者育成を行う。

写真	氏名	所属・職名
	森 郁恵	理学研究科・生命理学専攻・教授
	上川内 あづさ	理学研究科・生命理学専攻・教授
	檀 美智子	エコピア科学研究所・教授
	池田 美子	生命農学研究科・生物農機・機械科学専攻・准教授
	大内 美奈	工学研究科・化学・生物工学専攻・准教授

女性科学者育成チームに所属する女性教員数: 生物10名、化学4名、農学10名

年1回の合宿・セミナー

女子学生より女性教員が多い
(女性教員が多い世界を体験)

まる二日間、女性教員と過ごす
(宿泊も同部屋で、深く話し合う)



子供連れ参加の
全面的サポート
(子供のいる生活を疑似体験)

少数の男性教員の参加
(女性教員の状況を模擬体験・マイナー問題)

合宿内容

参加条件(参加前のハードル)

将来研究室を主宰すること、あるいは企業でトップリーダーになることに興味があること
(将来を少し意識して、自分で手を上げることが重要)

議論テーマ(例)

「なぜ女性リーダーが生まれにくいのか(シェリルサンドバーグ著LEAN INより)」

「独自の研究テーマの見つけ方・育て方」

「研究室を主宰するということ」

「トップジャーナルへの道」

「ワークライフマネジメントを考える」



効果

将来への漠然とした不安は、実際に話を聞いたり、一緒に過ごす中で、
「自分達で切り開けばよい」という意識に変わり、たくましくなる

全学における女性リーダー育成の広がり

リーディング大学院「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラム

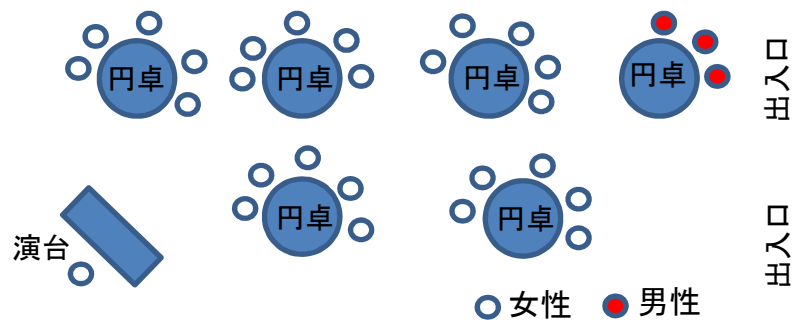
マイナー問題を実感中の男性教員

理学研究科の女性教員割合: 9.5%
合宿参加の男性教員割合: 10.3% ほぼ同じ

いつも、女性教員は
このような状況なの
ですね…

これだけ少数派
だと、立場が悪い
ですね…

なぜか一番端に陣取る男性陣



名古屋大学子育て単身赴任教員ネットワーク

上位職の女性教員採用の中で浮かび上がってきた問題点

採用される女性教員
のほとんどが
子供連れ単身赴任



男性教員を採用して
も
子供連れ単身赴任の
ケースはほぼない

男女における
明らかなハンディキャップ



彼女達の最大のパフォーマンスを発揮してもらうためには
サポート体制が必要不可欠



より多くの仲間が問題を共有し、解決する場として、採用された女性教員らによって
「名古屋大学子育て単身赴任教員ネットワーク」
を自発的に設立(2013年8月)

活動方針

着任前から 情報提供

どこに住むか？ 必要なサポートは
どこで得られる？

着任時には**全力**
で働ける生活環
境を整えるため
にサポート

「研究力強化」 のため

「福利厚生」
事業ではない



優れた研究をするために
単身での子育てを選んだ教員は
研究教育に対する意欲が非常に高い！

活動内容

ランチ会と家族会
家族ぐるみの交流と
情報共有



パートナーは大事

こども同士が友達に！



一緒に遊べば
親は仕事ができる

忙しい時に預け合う
一緒に住む？

シェアハウスの企画
子育ての共同化
(官舎などを利用可能？)

理学研究科では
全面的に活動を支援

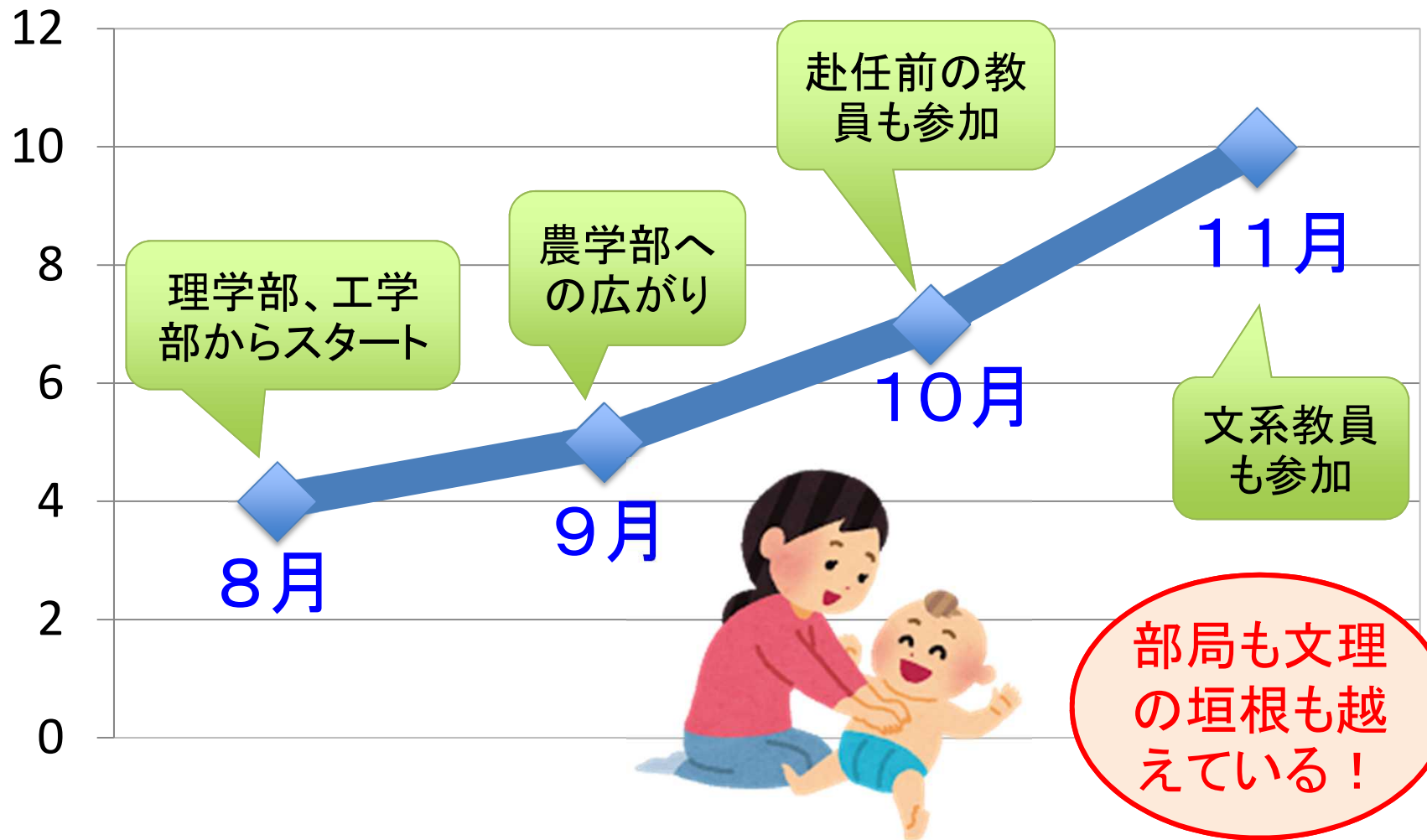
どんどん進め
てください



篠原久典 理学研究科長

メンバーは口コミで増加

メンバー数(人)



「研究力強化」のための子育て環境整備

英語版も完備
(外国人PIも増えている)

名古屋大学
「研究力強化」のための
子育て環境整備
http://www.bio.nagoya-u.ac.jp/~NC_home/support.html

English

名古屋大学子育て単身赴任教員ネットワーク

この会は、単身赴任で子育てや介護を行っている教員の自発的ネットワークです。

名古屋大学は、子育て・介護、単身赴任生活と研究生活の両立を応援しています。

2013年に、単身赴任で子育てを行っている教員の自発的ネットワーク「子育て単身赴任の会」が発足しました。

子どもを一緒に遊ばせたり、お互いに情報交換をすること
との両立の前にたちどころに様々な問題の解決をめざし

単身赴任での子育てを予定している着任前の教員や研究
事サービスといった情報を、実際の利用者としてお伝えしています。

下記連絡先までご連絡ください。また、着任前の方にも情報をお伝
名古屋大学赴任予定で、こちらの保育園や子育て情報が得られずに困
絡ください。

日常生活の様子をコラムで公開
(不安を和らげる)

メンバー、アドバイザーが
部局を超えて協力

名古屋大学女性神経科学者による
脳神経回路世界拠点構想

世界拠点形成構想に至った経緯

森、上川内、坂内は、
脳神経回路の情報処理について研究している
3人の研究室は同じ建物にある、自然と会話する機会が多い

自分達の最新データから、
新しい概念に基づく神経回路の動作原理を閃いた

草の根的に「我が国オリジナルの研究」を発想

オバマ大統領主導のアメリカNIH
脳地図プロジェクトと関連することに気づく

世界拠点化すべき重要な研究と認識

「本気」「失うものはない」
「3人で姦しく奔走」

2013年10月27日号のNatureに
海外のチームが類似の(似て非なる)発想に基づく論文を発表
我々の構想は今後の脳神経回路研究の潮流となると確信

上川内あづさ

森郁恵



坂内の次女

坂内博子

研究組織—世界拠点化に向けて

線虫: 温度学習回路

森 郁恵

理学研究科 教授

2006年 猿橋賞

2007年 井上學術賞

2013年 時実利彦記念賞(女性初)、木原賞



ほ乳類: グリア細胞、1分子イメージング

坂内博子

理学研究科 特任講師

2008年 日本生物物理学会

若手奨励賞

2013年 日本神経科学学会奨励賞(女性二人目)



ショウジョウバエ: 聴覚回路

上川内あづさ

理学研究科 教授

2010年 科学技術分野文部科学大臣顕彰

若手科学者賞

2012年 日本神経科学学会奨励賞(女性初)



ゼブラフィッシュ: 聴覚回路

小田洋一

理学研究科 教授



ゼブラフィッシュ: 小脳回路、イメージング

日比正彦

生物機能開発利用研究センター 教授



国内外の若手トップリーダー神経科学研究者、情報工学系研究者を
名古屋大学へ招致 & 研究交流

世界トップレベルの研究機関と連携

国立生理学研究所、豊橋科学技術大学院大学

Harvard Medical School、HHMI Janelia Farm Research Campus など

数が増えてこそ

個人の問題として片付けられない問題点が浮き彫りになり
協力しあって、女性研究者も周りも解決策を探すことにつながる

名古屋大学生命理学専攻では

女性限定公募をいち早く行い成功している
(分野を絞らないので、優秀な人材プールが潜在的に存在していた)
今後は、優秀な女性研究者の争奪戦は必至
これからも新しい流れを作り出し続けます！

名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻
女性教員コアメンバー
森 郁恵(教授)
上川内あづさ(教授)
佐々木成江(准教授)
坂内博子(特任講師)
西山朋子(特任講師)